日本名湯百選に湯村

浜坂・七釜に続き認定

三友会長（右）から日本名湯百選の認定書を受け取る田中副町長（中央）と朝野会長＝24日夜、新温泉町湯

湯治としての魅力向上へ

「日本の名湯百選連携会議」が24日、新温泉町湯の旅館「ゆめ春来」で開催され、浜坂・七釜温泉に加えて新たに湯村温泉が追加認定された。主宰するNPO法人「健康と温泉フォーラム」の三友紀男会長から、新温泉町の田中孝幸副町長と朝野泰昌町観光振興協議会長に認定書が手渡された。温泉を活用した健康増進の機運醸成に利用していく方針。（松本妙子）

「日本の名湯百選」は温泉療法医が勧める健康と保養の温泉地として、同法人が選定。全国健康増進や疾患予防などの湯治、資源管理や自然環境保全、温泉文化の伝承などを基準に全国約3200の温泉を検証している。1989年以降に温泉地79件が登録され、兵庫県ではすでに浜坂・七釜、城崎、有馬、赤穂が選ばれている。

鳥取県三朝町で23日に始まった同法人の全国大会で湯村温泉の追加認定が決まり、会場を同温泉に移したこの日、認定式が行われた。同法人の合田純人常任理事は「温泉施設の充実、温泉利用指導の人材育成、町の協力網があり、健康増進の温泉地づくりに向かっていく体制ができた」と湯村温泉を評価した。

認定書を受け取った朝野会長は「とてもありがたい。滞在型の新湯治場を目指し客層を広げるきっかけとし、未病PRや健康志向、バリアフリー化などバリエーションを増やしたい」と話し、今後の魅力発信への意気込みをみせた。

連携会議では、長野、鳥取、山口、熊本などの温泉地の実践報告や湯治活用について意見交換が行われ、新温泉町おんせん天国室の福井崇弘室長も、町内三つの源泉の魅力や温泉活用の取り組み、課題を紹介。「失敗してもチャレンジし、担い手発掘にも注力して多彩な温泉事業を進めていく」と述べた。